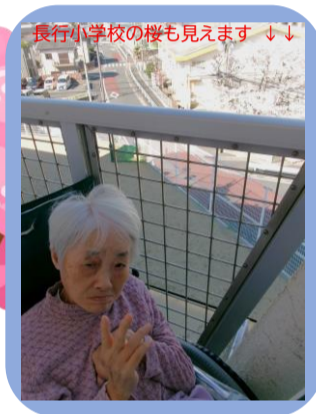


## 春爛漫桜の下で



長行小学校の桜も見えます ↓↓

生活の舞台 第7回 シンボルツリー  
当苑の駐車場の片隅に、立派なソメイヨシノの樹があります。毎年3月下旬から4月上旬にかけ、大輪の花を咲かせます。その満開の桜は、当苑の2階ホールの窓越しに、同じ目線で飛び込み、あたかも桜が自らの意思で入所者様に春の訪れを告げてくれているかのようです。天気の良い暖かな日には、桜をより身近で観賞していただきたく、できる限り多くの入所者様を代わる代わる桜の樹の下へ御案内しています。そこで「春」の風や匂い、音などを身体で感じていただいたり、記念撮影をしたりするのは、当苑の春の風物詩でもあります。



## 入職おめでとう!!

4月から入職された、新人の坂本歩(あゆみ)さんです。当苑の新戦力として、宜しくお願いします!!



## 4月 お誕生日おめでとうございます



今月の予定 (5月)

石橋胃腸内科医院 回診 (毎月曜日)
11日、18日、25日
ますゆき皮膚科クリニック 回診
7日(木)
小倉南歯科医院 回診 (毎火・木曜日)
7日、12日、14日、19日、21日、26日、28日
ビューティヘルパー (訪問理美容)
12日(火)
避難訓練
27日(水)

## ふたばよもやま話 (第三十九回) ~不思議なオブジェ~

小倉北区の小文字通、馬借・魚町から市役所・小倉城(勝山公園)方面に架かる橋を『中の橋』と言い“太陽の橋”との愛称がつけられています。下流側の歩道には、ひまわりがモザイクで縦長に大きく描かれ、橋の袂から見るとひまわりの花が円形に見えるようにデザインされています。

そしてこの橋に、通称「マカロニ星人」「ペンネ人形」「ちくわ頭」などと呼ばれ親しまれている7体の不思議なオブジェがあることは、ご存じの方も多いと思います。初めて目にする人にとっては「なんだこれ!？」と思われがちなオブジェですが、正式な名称は『宇宙七曜星の精』と呼ばれ、グラフィックデザイナーである故・福田繁雄氏の設計によるものです。春分と秋分の前後のある時間帯に、太陽の光が頭の空洞を通り、歩道上にひまわり形状の影ができる仕掛けとなっています。

なお、ひまわりは北九州市の「市の花」です。



歩道上に並ぶ不思議な7体のオブジェには、驚くべき仕掛けがある。春分と秋分の前後のある時間帯に、ご自身の目で、確かめてもらいたい。

右のひまわり彫像については『時と風の博物館』様の写真から引用させていただきました。

【編集雑記】▼早いものでもう五月となった。五月は日本流にいえば皐月(さつき)だが、稲苗月(いななえつき)、早苗月(さなえつき)、雨月(うづぎ)などの別名もある。いずれも、稲や植物の生育に欠かせない雨、つまり水を連想させる言葉となっている。日本の古名は「豊葦原の水穂(瑞穂)の国」と言われるが、これは、国土に水が満ち稲がたわわに実る様子を表したものである▼五月は、寒い冬を乗り越え、植物、特に日本人の主食である米(稲)にとって、一番大切なスタートの月である。各地では春祭りも行われ、近年では大型連休も整えられ、気候も良くて、レジャー満開の月となっている▼農業においては、現代は機械化が進み、入所者様の時代に比べたら随分と楽になったと思うが、機械の購入費など当時とはまた違った苦労があることは否めない。入所者様世代の農家の人たちが、牛馬を使い我が身を削ってまで農作業にいそんでいた苦労を偲ぶと、便利にはなったとはいえ、いろいろ考えさせられることも多い▼北九州と言えど工業都市のイメージが強いが、合馬のタケノコや梅林、さらには平尾台より湧き出る湧水で育った稲など、小倉南区は農業と縁の深い土地である。特に合馬のタケノコは、地元農家が手入れをして育て上げ、また広報も積極的にを行い、全国に通用するブランドに昇華させた▼日頃何気なく口にする食物だが、入所者様が第一線で働いていた時代を思い、感謝して戴くことも大切だろう。また当時の思い出を入所者様に伺うことも大切であり、職員と入所者様とで思いもよらない共通の認識が生まれるかもしれない。